

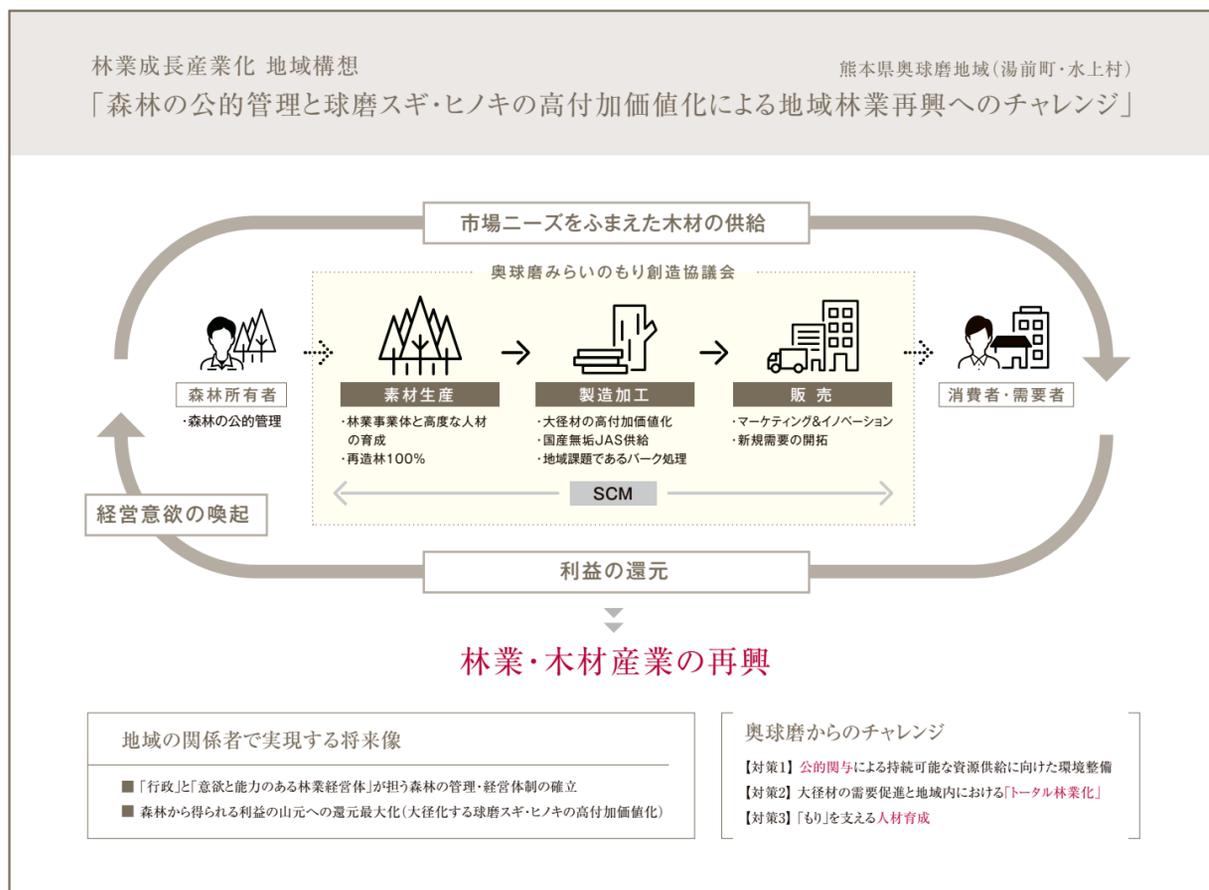
日本三大急流の一つ、球磨川の源流がある熊本県球磨郡の奥球磨地域(湯前町・水上村)。林業隆盛なこの地域では、良好な生育環境も寄与し、伐期を迎えた杉は40cmを優に超え、桧でも30cmを超える大径木化が進んでおり、その有効活用が課題となっています。

大きく育った球磨杉・球磨桧を活かし、奥球磨の林業をブランドに。森林資源の持続的循環活用を確立して、奥球磨の森から地域の未来を創造します。

奥球磨みらいのもり創造協議会

球磨材の普及とそのブランド化を目指す団体です。大径材の有効活用を目的に、行政の協力のもと地域の林業や木材産業等の関係者と消費地の建材商社が協力して立ち上げた「SSDプロジェクト」において「大径材熱処理芯去り製材法」を確立し、JAS機械等級区分構造用製材や化粧材などの供給に取り組んできました。この新規開発技術や、それを生かした各種製品はウッドデザイン賞など数々の評価をいただいた上、地域の取り組み自体が「林業成長産業化 地域創出モデル事業」の選定を受けています。この地域モデル事業の構想を実現するために改めて組織されたのが「奥球磨みらいのもり創造協議会」です。

■平成30年度林業成長産業化 地域創出モデル事業 選定

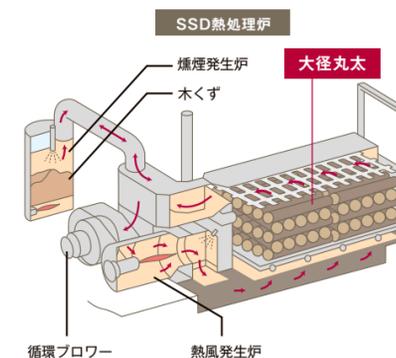


木材乾燥手法の開発

SSD 大径材熱処理芯去り製材法

丸太のまま芯部まで熱処理

大径丸太に燻煙ガスを活用した熱処理を施す技術を開発。丸太時点での熱処理により、予め木材の内部成長応力を緩和させておき、製材時の反り曲がり抑制による効率的な芯去り製材手法を確立しました。



大径材の徹底的有効活用

新技術により、大径材を利用した高効率な芯去り製材が可能になりました。大径丸太からは複数の構造材が採取できる上、端材も節のない化粧材として利用できます。様々な理由により大径材の需要が薄まる中、年々太る杉・桧の元玉大径部位の徹底的な有効活用を実現させました。



380径3m丸太 柱取り

高品質を実現



元玉大径丸太の外周部からは、節や干割れのない美しい芯去り材が採取できます。さらに、中温域で熱処理および乾燥させるため、木材本来の美しい色艶を保持。また平角材においては、大径材から芯去り製材を行うことで従来の芯持ち材よりも強度が向上。意匠性が高く、強度や寸法安定性に優れた高品質な製品の生産を可能にしました。

需要創出のための明確な品質保証

JAS 機械等級区分構造用製材

施設等の木造化・木質化などの社会的ニーズを背景に、需要の拡大が見込まれるJAS品質保証材。一方で、国内の構造用製材の実績の内、国産JAS材の割合は極々わずかでありません。

国産材の普及を促進するには明確な品質表示が必要と考え、製造法から見直し、SSD製材技術を開発。高い品質を明確な根拠で示すJAS規格材の供給を実現し、産地への還元に取り組んでいます。

